

国際理解教育/開発教育 学習指導 (活動) 案

【実践者】

授業者氏名	齋藤 悠真	学校名	私立 国本小学校
教科 (科目)・領域	総合的な学習の時間	対象学年 (人数)	5年きり・すぎ組 (51名)
実践年月日もしくは期間 (時数)	2021年4月 ~ 12月 (20時間)		

【実施概要】

1. 単元名 (活動名) : 国本小学校×サミットストア 喜多見にSDGsの意識を広めよう!					
2. 実践する教科・領域 : 総合的な学習の時間	3. 学習領域				
		1	2	3	4
	A 多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生	
	B グローバル社会	相互依存	情報化		
	C 地球的課題	人権	環境	平和	開発
D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加		
4. 単元の目標 :					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・サミットストアのSDGsに対する活動を発見・理解し、それをまとめ、地域の方々に広める。</li> <li>・自分たちの活動を通して、自分たちができる「行動」や「協力」を見つめ直し、より良くなるための提案を行い、行動へとつなげる。</li> </ul>					
5. 単元の 評価規準	①知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsに関するスーパーの様々な取り組みが行われていることを理解している。</li> <li>・インタビューやアンケートによる調査活動を目的や対象に応じて、適切に実施している。</li> </ul>			
	②思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スーパーでのエコ活動、身近な環境問題に関心をもち、環境問題を自分の問題として捉え、必要な情報を取捨選択し、問題解決に取り組んでいる。</li> <li>・調べたことをわかりやすくまとめたり、相手に関心をもってもらえるように工夫して伝えている。</li> </ul>			
	③学びに向かう力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分達の取り組みが社会地域貢献になっていることを実感することで、自分と身近な環境との関わりを見直そうとしている。</li> </ul>			

<p>6. 単元設定の理由・単元の意義</p> <p>(児童/生徒観、教材観、指導観)</p>	<p><b>【単元設定の理由あるいは単元の意義】</b></p> <p>現代社会において、様々な環境問題や「SDGs」という言葉は子どもたちにとってとても身近な存在である。また、教科書に関連単元が挙げられていたり、私立中学校受験にも取り扱われたりする中で、子どもたちの関心は増える一方である。しかし、実生活の中では、環境問題と自分たちの生活とを関連付けたり、SDGsの17の目標を達成するためにエコ活動に取り組んだりしているとは言い難い。そこで、スーパーのSDGsに対する活動を発見・理解し、それをまとめ、地域の方々に広めることを通して、自分たちができる「行動」や「協力」を見つめ直し、よりジブンゴトとして考えることができるだろう。</p> <p><b>【児童/生徒観】</b></p> <p>学習に対して意欲的に取り組む児童が多く、自分の考えをもつことができている。しかし、コロナ禍において、それを他者に伝える活動や行事が減っているため、表現力の向上や発表に対するモチベーションが低いのも事実である。また、SDGsについて勉強をはじめたものの、海外も旅行でしか知らない子どもたちが多い中、SDGsや17の目標、国際的な問題などについては規模が大きすぎるため想像しにくく、子どもたちの感覚からは大きくかけ離れている。そこで、だれもが利用する身近なスーパーマーケットを学習の場にし、そこで行われているエコ活動やSDGsの取り組みを探ることで、よりその活動が身近なものとして実感できるだろう。</p> <p><b>【教材観】</b></p> <p>本単元では、はじめに子どもたちと「持続可能な社会」について保護者と考える機会や友達とその考えを共有する機会を設けることで、より自分たちの生活の中の身近な問題として捉えることができる。</p> <p>私学の特性もあり、地域に対する愛着が薄い。また、コロナ禍ということもあり、校外学習も思うようにいかない。しかし、サミットストアは最寄り駅の目の前にあり、通学時に従業員やお客さんと関わる機会もあるため、子どもたちにとって身近な存在である。学校から近く、校外学習もできる、そんなところを学習の場にできることで子どもたちのモチベーションも上がるのではないかと考えた。</p> <p>また、発表の場としても学校に展示するより、サミットストア店内に掲示することで、より大勢の方に見ていただき、より効果的に発表できるため、子どもたちの学習意欲も高めることができるだろう。</p> <p><b>【指導観】</b></p> <p>4年次に社会科でサミットストアの見学、また、5年次の社会科では「食料生産」や「わたしたちの生活と環境」の単元で学習したことに関連付け、発展的な内容で進めていきたい。サミットストア喜多見店と連携し、出張授業にて、学習課題を提示していただき、実地学習や調査から得たものまとめ、発表する学習は、プロジェクト型の学習で、子どもたちが興味関心を持ち、探究的に課題を解決していくことができるようにする。</p>
---	---

<p>7. 単元計画 (全20時間)</p> <p>※全体の総時間数や「本時」の記入場所は適宜変更してください。</p>			
時	ねらい	学習活動	資料など
第1次 1	環境問題に興味を持つ。 (総合)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月22日がEarth Dayであることを知る。</li> <li>・自分たちの知っている環境問題を出し合う。</li> <li>・動画を視聴し、感想を伝え合う。</li> </ul>	<a href="#">Earth Day 2020 - YouTube</a>
2	実際の自然を体感する。 (総合)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校庭の桜の木の剪定作業を手伝う。</li> <li>・種類ごとに分け、分類する。</li> <li>・剪定の意義や枝葉の処理の仕方を職人さんから教えてもらう。</li> <li>・感想を伝え合う。</li> </ul>	

3	環境問題の解決に向けて、声を上げたセヴァンスズキさんについて考える。 (道徳)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リオの伝説のスピーチに関する動画を視聴し、内容を理解する。動画視聴後、紙面での確認を行う。</li> <li>・考えたことを伝え合う。</li> </ul>	<a href="#">子どもたちの声に耳を傾けましょう - 「国連環境開発会議」(地球サミット)におけるセヴァーン・スズキさん(カナダ)によるスピーチ(1992年6月、ブラジル、リオデジャネイロ) - YouTube</a>
4、5	エシカルマークの存在を知る。 (国語)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くのエシカルマークの存在を知る。</li> <li>・興味のあるマークを調べ、プレゼン資料を作り、グループでの発表を行う。</li> </ul>	
6、7	Sustainability～持続可能性～について自分なりの考えを持つ。 (総合)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連想される言葉を3つ挙げるとともに、それ以外の言葉を保護者から7つもらってくる。(家庭を巻き込むことで、学校だけの取り組みにしない)</li> <li>・ペアでのマインドマップを作り、それを活かし、クラスのマインドマップを完成させ、考えを共有する。</li> <li>・「持続可能な社会」とはどんな社会を指すのか考える。</li> </ul>	
	草木染めの体験を通して、剪定で処理されるはずの枝葉を利用し、自然界から色を頂くことでさえ、SDGsに関わっていることを感じる。 (家庭科)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学園のビワやサルスベリ、椿などの枝葉も用意する。</li> <li>・アトリエシムラ協力のもと、事前指導や講演会、染め体験を行う。</li> <li>・人間国宝志村ふくみさんの生き方、考え方を体験や講演、動画を通して、感じ取り、感想を共有する。</li> </ul>	・プロフェッショナル仕事の流儀 「いのちの色で、糸を染める～染色家志村ふくみ～
第2次 8～ 10	SDGsについて知る。 (総合)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsの概念や17の目標について学習する。</li> <li>・本学園中学生と連携してSDGsの共同ワークショップを行う。</li> </ul>	・Mundi2020August(企業連携×SDGs特集) ／2018 August(フードバリューチェーン特集) ／2016 January(食卓から世界を旅する特集)
第2次 11～ 13	企業のSDGsに関する取り組みを調べ、共有する。 (国語)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsの取り組みをしている企業を調べる。</li> <li>・17の目標ごとに企業の取り組みをまとめる。</li> </ul>	・切って使えるSDGsアイテム
第3次 14 本時	SDGsに取り組む「サミットストア」についての現地調査がより有効的になるような見方、方法を考える。 (総合)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現地調査について、効果的な見学になるよう、見学時のポイントを考える。</li> <li>・サミットストア喜多見店の取り組みを予想する。</li> </ul>	・第2次で仕上げた企業調べの作品 ・店舗の写真や図面 ・Mentimeter
第3次 15～ 16	企業調べで出てきた「サミットストア」のSDGsの取り組みについて、出張授業を受け、実際に店舗訪問し、児童自らSDGs取り組みを発見する。 (総合)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出張授業(サミットストア喜多見店)にて課題の提示からこれからの学習活動の予定を立てる。</li> <li>・サミットストアを実際に訪れて、取り組みを発見する。</li> </ul>	・Mentimeter
第3次 17～ 20	サミットストアの取り組みを地元住民に発表ためにまとめることで社会貢献につなげる。 (総合)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その取り組みをまとめ、店舗に掲示し、お客さんの意識変化調査をする。</li> </ul>	・切って使えるSDGsアイテム ・Adobe Spark

過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
<b>導入</b> (10分)	<p>1、企業調べを振り返る。 「いろいろな企業の取り組みを調べ、まとめましたが、特に印象に残ったことはありますか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの企業でそれぞれが工夫していた。</li> <li>・業種によっては同じようなことをしている。</li> <li>・大企業ほどしっかりとアピールしている。 「調べてみて、実際に企業訪問に行った人はいますか？」</li> <li>・いけません。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな視点からの感想になるように質問する。</li> <li>・行った児童がいれば、詳しく聞きクラスに共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2次で仕上げた企業調べの作品を取り上げる。</li> </ul> 
<b>展開</b> (30分)	<p>2、実地調査について、効果的な見学になるように考える。 「実際に調べるだけでは、わからないこともたくさんあります。やはり「百聞は一見にしかず」です。喜多見の商店街に協力を仰ぎ、なんとサミットストアが協力してくれることになり、サミットストアの店舗内でSDGsについて取り組んでいることを探しに行くことになりました。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おっ、すごいじゃん。 「しかし、ただ見に行くのでは意味がありません。どんなところに注目して見学を行うとより効果的でしょうか。」</li> <li>・今まで勉強したことはしっかり見たほうがいいんじゃないか？</li> <li>・事前にHPとかwebで調べてから行けば？</li> <li>・エシカルマークはたくさんありそう。</li> <li>・写真を撮って記録に残すのがいいのではないか？</li> </ul> <p>3、サミットストア喜多見店の取り組みを予想する。 「先ほど、事前に調べてから・・・という意見が出ましたが、以前の企業調べや今までの学習で扱った取り組みで、喜多見店がやってそうなことはあるかな？」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・牛乳パックやパックのリサイクルBOXの設置</li> <li>・エシカルマーク</li> <li>・賞味期限がぎりぎりのものには割引シールが貼ってある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シンキングツールを使い、まとめ方がバラバラにならないようにする。</li> <li>・時間があれば、やっていたほしいことも挙げられるとよい。</li> <li>・見学時の注意事項を挙げさせてもよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・iPad</li> <li>・アプリ：ロイロノート or Jamboard</li> <li>・店舗の写真や図面 (店舗に交渉中)</li> <li>・Mentimeter を使ってもよい</li> <li>・iPad</li> <li>・アプリ：ロイロノート or Jamboard</li> <li>・店舗の写真や図面 (店舗に交渉中)</li> <li>・Mentimeter を使ってもよい</li> </ul>
<b>まとめ</b> (5分)	<p>4、見学当日の確認と次回の課題の確認。 「明日、サミットストア喜多見店の加藤店長がゲストスピーカーとして講演してください</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際にどのような手法が考えられるか</li> </ul>	

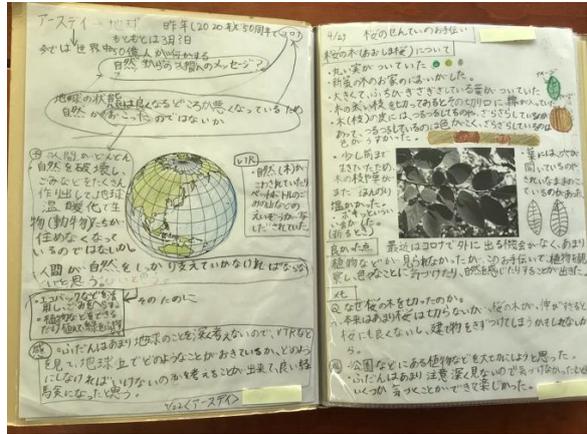
	<p>います。サミットという会社のことやこれまでの環境に対する考え方などを聞いたのち、見学に行きます。また、見学後の授業では、地域の方々にSDGsのことを考えてもらうにはどうすればよいかをみんなで考えていくので、そのことも頭に入れながら見学を進めてください。」</p>	<p>を挙げてみてほしい。</p>	
<p>9. 評価規準に基づく本時の評価（評価方法）          実地調査がより有効的になるような見方、方法を考えることができるか。          （ロイロノートでのまとめとの児童の発表の様子）</p>			
<p>10. 学習方法および外部との連携          &lt;外部との連携&gt;          「サミットストア喜多見店」に地域を巻き込んだSDGs関連の取り組みを行いたいをお願いしたところ、発信の場、学習の場として提供してくれることとなった。喜多見店としても地域に根付いたスーパーマーケットを目指し、社会貢献としてSDGsの取り組みを外部に発信したいという思いがあったようだ。店長や副店長がゲストティーチャーとして関わり、課題提示をしていただくことによって、子どもたちのモチベーションが上がる。また、店内に作品掲示を行うことで、サミットストアからの地域への発信にもなるので、Win-Winの関係になっている。          &lt;学習方法&gt;          PBL型の学習による探究的な学習を行う。</p>			
<p>11. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学内では5年生2クラスによる実施</li> <li>・本学園の中学生とのSDGs交流授業の実施。</li> <li>・1月には、国境なき医師団に在籍していた方の講演を実施予定。</li> <li>・来年度は国際をテーマにオーストラリアの日本人学校と連携をして学習を進めたいを考えている。</li> </ul>			

## 【自己評価】

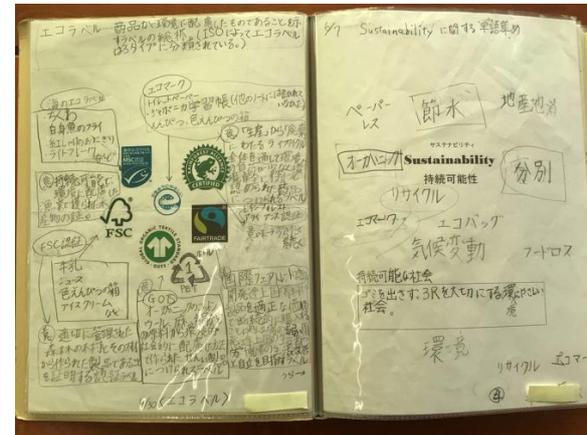
12. 苦労した点	<p>学校と企業が連携しての学習活動になるため、準備段階でとても苦労した。全体をイメージする授業者が持ち込みで企業と一から話していくので、実現まで長い道のりであった。</p>
13. 改善点	<p>その地域や学校にあった進め方を多くの教員で話し合うことが重要である。がちがちにカリキュラムを作るのではなく、子どもたちの興味関心である程度方向転換できるよう柔軟に対応することを前提に進めるとよい。</p>
14. 成果が出た点	<p>普段の家庭での会話の中でも学校で学んだこと考えたことが生かされ、自分事として捉えていると保護者から報告があり、うれしく思っている。「次は何をするの？」から「次は〇〇したい」とか「こっちの方を詳しく調べたい」などと会話の変化がみられ、知識欲にあふれる子どもたちにとって、一つ一つのテーマから数多くの興味関心の矢印が外に外に広がっていくのを感じている。終わりのない学習課題なので、卒業までの1年余りで一人一人が何を感じ、どのように深め、表現していくのが楽しみである。</p>
15. 学びの軌跡 （児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど）	<p>児童には、毎授業ごとに右記のようなプリントに感想や疑問、自分に必要な事柄を自由にまとめさせている。</p> <p>すべてのプリントをファイルブックにまとめ、学びの軌跡をいつでも確認することができる。</p>



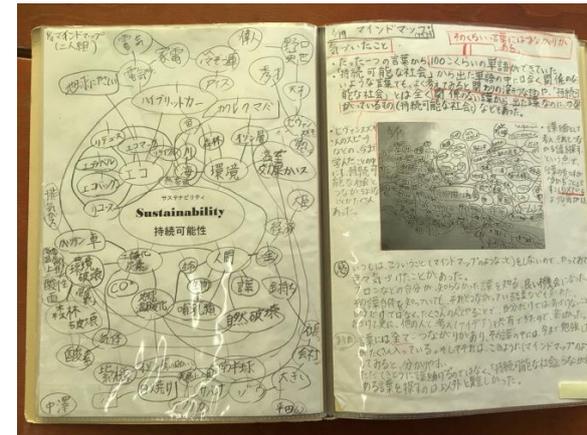
＜第一次 (Earth Day・桜の剪定・エコラベル・Sustainability・SDGs) ＞  
 ・4月22日に Earth Day の学習をしてから、桜の剪定のお手伝い  
 (この日がスタート。自然や環境に興味を示す体験になった。)



・エシカルマークについての話し合い (家庭から見つけたものを持ってきていた。)



・Sustainability から連想される言葉集め  
 (保護者も協力してもらうことで、家庭での話題になったようである。)

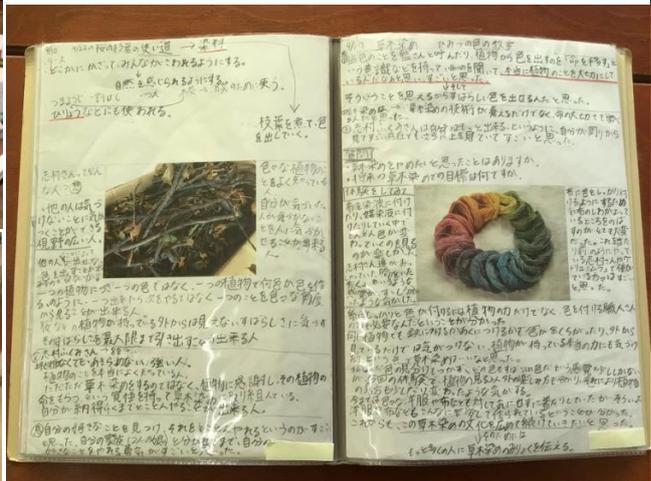
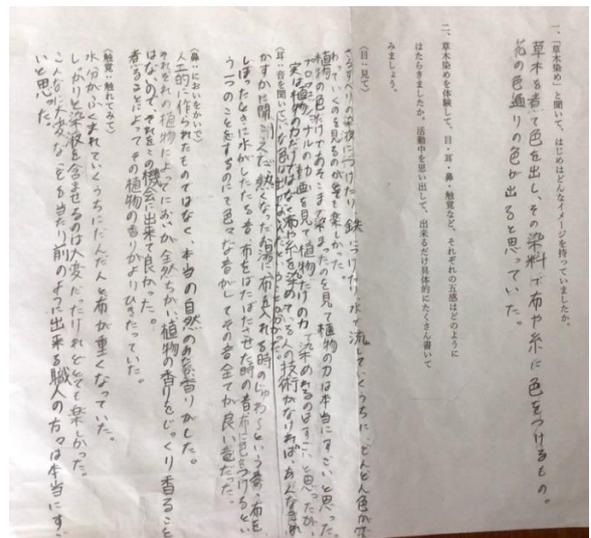


・SDGs についての学習 (映像や資料、講話、いろいろな形式、媒体を使い学習を進めることで子どもたちの学習意欲が高まった。)



<草木染め体験>

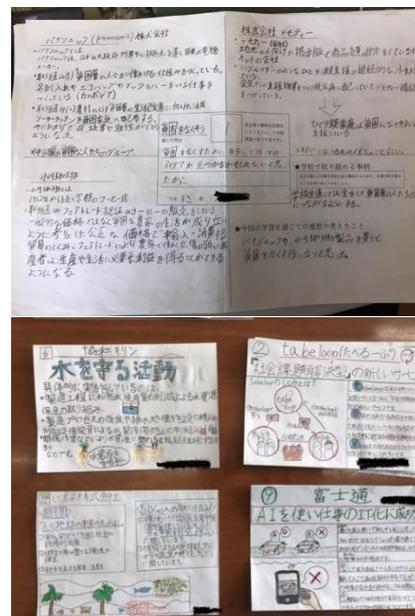
染色家志村昌司先生の講演から染めの体験、袱紗サイズに整えてオリジナルの刺繍を入れた。



↑ 袱紗を使い、茶道も行った。

<第二次(企業調べ)>

・自分の興味のある企業を調べ、SDGsに関する取り組みをまとめた。





16. 授業者による自由記述

下記のコラムを書かせていただき、自分のまとめにもなりましたし、達成感のある研修になりました。このような機会をくださり、ありがとうございました。

■ JICA 開発教育メールマガジン ◇2021年度9号◇ 2021年12月17日発行 ■

<コラム> SDGs 達成まであと9年！今と未来を見つめる学びとは？  
SDGs の達成目標まであと9年になり、ひとりひとりが世界の問題を自分ごととして捉え、行動することを目指す、開発教育の視点がより重要な段階といえます。児童・生徒の行動や、長期的な意識につなげるためには、SDGs をどのように授業で扱い、どんな働きかけが必要なのでしょうか。今回は学校で SDGs の授業を行っている、国本小学校の齋藤先生から、その授業の流れや児童の反応、授業作りに込められた想いをお聞きしました。ぜひご覧ください！

[2021年12月号コラム SDGs 達成まであと9年！今と未来を見つめる学びとは？  
https://www.jica.go.jp/hiroba/teacher/report/mail\\_magazine/2021/jhqv8b000006pl4j-att/202112.pdf](https://www.jica.go.jp/hiroba/teacher/report/mail_magazine/2021/jhqv8b000006pl4j-att/202112.pdf)

JICA地球ひろば 開発教育コラム

## SDGs達成まであと9年！今と未来を見つめる学びとは？

SDGsの達成目標まであと9年になり、ひとりひとりが世界の問題を自分ごととして捉え、行動することを目指す、開発教育の視点がより重要な段階といえます。  
児童・生徒の行動や、長期的な意識につなげるためには、SDGsをどのように授業で扱い、どんな働きかけが必要なのでしょうか。  
今回は学校でSDGsの授業を行っている、国本小学校の齋藤先生から、その授業の流れや児童の反応、授業作りに込められた想いをお聞きしました。

### SDGsを通した開発教育の授業実践

執筆：国本小学校 副教頭 齋藤 悠真 先生

#### 教科横断型のSDGs学習

まずは学業にある木の木の習字のお手紙、都心で過ごす子どもたちにとっては、授業に当たり前な経験は刺激的なものでした。とげが刺さって痛かった、緑の匂いが新鮮だったと感想が出るほど、自然を五感でフルに感じた日になりました。習字した授業は廃棄されることが分かったので、それらを何かに利用できるか？方法はないだろうか？と子ども達に問いかけて活動を終えました。

そして道徳の授業では、カナダの環境問題活動家であるセヴァンズキさんの、環境サミットでのスピーチを実際に英語で聞きました。また国語や総合的な学習で、子どもたちはエシカルマークのついたものを自宅のキッチンで家族と探したり、そのマークを詳しく調べ、ICT機器を利用してプレゼン資料を作って発表したり、17の目標について調べると、教科を横断しながらいろいろな分野で学習に取り組んできました。

子どもたちは、これらの学習活動から生まれる様々な疑問や、答えのない課題に対して課題を設定し、情報の収集・整理・分析をすることで、自分の意見を持ち、クラスの友達と共有することの楽しさや喜びを感じたようでした。そして、課題の解を導くため、より一層徹底的に学習に取り組む姿が見られました。

#### 地域の企業と連携した取り組み

夏休みには、SDGsの取り組みを行っている企業を調べ、100社以上の取り組みをみんなで共有しました。多くの企業が社会的責任を果たすための取り組みをしていることを知り、学校の近くにある「サミットストア」の取り組みも学んでいたため、近隣店舗の店長をゲストスピーカーとして招き、講演をしていただきました。その翌日には、感染対策を講じた上で、開店前に実際に店舗の中を見学させていただきました。子どもたちは写真も撮ったり、開店準備中の従業員の方に質問をしたりして、サミットストアが行っているSDGsの取り組みを探し、実際に肌で感じる事ができました。今後、店内に子どもたちが作成した壁新聞を掲示することになっており、地域の方々へ伝え広めていく学習を計画しています。

#### 体験から「循環」と、その心学ぶ

9月中旬に「アトリエシムラ」の協力のもと、4月に剪定した枝葉を利用した草木染め体験を行いました。志村昌司先生の想いを聞き、職人の技を見て、生糸を触り、自然の色を感じ、皆で考えることで、子どもたちのモチベーションもパフォーマンスも上がっていました。

染めた布は、家庭科で布のサイズに縫い、茶道の授業で使うこともできました。廃棄するはずの枝葉から「色」を頂き、新たなものを生み出す過程では、自然に対する畏敬の念を体感することができました。「真心の発露」「自然に対する素直さの涵養」「恩を知り恩に報ゆる心の育成」という校訓や、SDGsにつながることもできました。

校内の学習展示発表会では、4月からの一連の学習のまとめを展示し、保護者や見学者から称賛いただきました。

終わりのないこの学習は、まだまだ続きます。子どもたちにとって実りのある2年間、そして将来につながる2年間にするべく、これからも挑戦していきたいと思えます。

#### 授業に込めた想い・願い

子どもたちは授業のために感想や意見、疑問などを書き留め、クリアブックにまとめています。将来、今の考えと、彼らが社会に出た時の考え方の違いを受け止め、万物にとって最善の行動をとるために、自分の意見をしっかりと持ち伝えていかなければいけないと考えます。子どもたちには、これからの社会を担っていく中で、環境や自然だけでなく、経済や文化、国家間の関わりなどを包括的に捉え、常に何れの世界や日本のために尽くせる大人になってほしいと願っています。

**齋藤先生は、2021年度 国際理解教育/開発教育指導者研修に参加しています。**

JICA地球ひろば主催の国際理解教育/開発教育指導者研修は、学習指導案の作成と授業実践を通して、教員としての専門性を高めることをねらいとした、教員対象の研修です。

齋藤先生は『この研修で、同じ志を持った多くの教員と出会い、語り合うことで、今まで行ってきた教育活動に幅が出たと思います。またこの研修を通して、この教育を広い視野で広げていかなければいけないという覚悟が強くなり、同時に「これでいいのだ」と自信がついたように感じています。』と感想を語ってくださいました。

この国際理解教育/開発教育指導者研修の一環として、2022年2月6日(日)に一般向けの公開セミナーを開催します。今後、JICA開発教育メールマガジンやJICA地球ひろばWebサイトにて詳細を発信予定です。ぜひご注目ください！

開発教育の授業実践事例・学習指導案はこちら

参考資料：

特にありません。ご質問等ございましたらお気軽に「国本小学校（0334164729）齋藤まで」連絡頂ければと思います。